



みなさん、こんにちは。校長の合浦英則です。今年度も様々な名言にちなんだエッセイをお届けします。これを通して何かしら感じてもらえたら嬉しいです。さて、今年度の第1回は…

アゲインストの風も、向きを変えれば『追い風』

松井信幸 『マエストロ、それは、ムリですよ…』～飯森範親と山形交響楽団の挑戦～』

「いわゆる地方オーケストラの一つ」などと評されるに過ぎなかった山形交響楽団。ところが最近、その山響がとにかく熱い！着実に観客動員数を伸ばし、さまざまな取り組みによって東京や他の地方楽団から“お手本”と目されるようなオーケストラに変貌した。その改革を先陣切って進めていったのが、音楽監督である指揮者・飯森範親である。旧来の発想に安住していた楽団員や事務局に「それはムリですよ…」と言われ続けながらも、飯森は手綱を握り走り続けた。その改革の中身とは……

(Amazon「本の内容」より転載)

僕のかつての勤務校でのことだ。ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」を創業したトラストバンクの須永珠代会長（当時社長）に講演をしていただいたことがあった。市とタイアップして『キセキの授業』と銘打っての講演会だった。校長室で出迎えた僕は須永さんに「来ていただいて光栄です」と言ったら、「私なんかでいいんですか。『キセキ』というのなら例えばビル・ゲイツを呼ぶくらい考えてもいいですよ。」といきなり突っ込み。「いや～それは…」と言いかけた私に、すかさず「自分が思い描いた以上のことは起こりませんよ。校長先生自身が大きな夢を描かなくてどうしますか」とびしやり。そして「人が人を育てます。ぜひ生徒さんがこの人の話を聞いてみたいと思った人を、生徒自身に依頼させてみてください。ダメでも学ぶことはたくさんあります」と朗らかにおっしゃった。

講演の中で須永さんは、超就職氷河期に大学を卒業し希望するような職につけず、20代は派遣社員として働き、38歳で起業するまで職を転々としたことを話して下さった。そんな厳しい状況の中でも、なりたい自分や自分がやりたいことを思い描き、その実現に向け一歩踏み出した須永さん。次々と立ちちはだかる障害にも負けず常に前に進んでいくポジティブな姿勢に圧倒された。翻って僕自身はと言えば、気づかないうちに自分から限界を決めてしまっていたのかもしれない。

とはいえ、そうそうポジティブな考え方になるのは難しい……と思った時に偶然手にしたのが『「マエストロ、それは、ムリですよ…」～飯森範親と山形交響楽団の挑戦～』という本だった。

最初、山形交響楽団側は、飯森さんに常任指揮者をダメ元で頼んでみたという。ところが意外にもあっさり引き受けてくれたことに驚いた。思わず担当者が「受けてくれないと思っていた」と口にする、飯森さんは、「そんな気持ちで頼みに来たんですか」と一喝。限界を決めず、次々とアイディアを出し実現していく飯森さんとそれに振り回される(?)楽団とのやりとりはまるで映画を見ているかのよう。爽快な気持ちになること間違いなし。そして飯盛さんの発する言葉がポジティブそのもの。少し紹介しよう。

- ・何に対しても「ありがとう」と思うんです。嬉しいときはもちろん嫌な思いをしても「ありがとう」と思います。反省しなさいということだろうし、その足踏みが次のステップへの布石になるかもしれないでしょ。
- ・決して悪口を言わない。悪口を言うことでマイナス効果が周囲にもたらせることをよくわかっている。
- ・ミスしたこと自体を責めたりはしない。なぜミスをしたのか。その原因を先送りせず、早く突き止めて次にミスしないためにどうすればいいかを一緒に考える。
- ・ポジティブな人間はポジティブな人間を呼ぶ。
そして極めつけは今日の一言。
- ・アゲインストの風も、向きを変えれば『追い風』

ところで僕は三条高校に赴任して4年目を迎えた。でも、あまり「校長、それはムリですよ……」と言われたことないなあ。僕もまだまだ、だな。

